

教科名	地歴	科目	日本史（理系）	単位	2単位
-----	----	----	---------	----	-----

1. 教科書及び副教材・参考書

改定版 日本史A（山川出版社）

2. 授業の目標および内容

授業の範囲は江戸時代後期(幕末)～明治時代を中心に取り扱う。現代の基礎ともいえる近代の時代の本質を核として授業を展開していく。明治政府の政策やそれにともなう氏族・民衆の反乱などを「なぜ」という視点から取り組ませる。つまり理系日本史は生徒が歴史的事象を学ぶことを通して、思考の幅を拡大し、多角的・多面的な視野の獲得を目的として実施していく。また、「教科」としての日本史というよりは「教養」を育む日本史として位置付けていく。そのため、前年同様グループワークや自らの考えをまとめる時間などを随時確保していき、「考える力」を身に着け、「生きる力」を持った生徒像を理想とする。

さらには生活や趣味・嗜好など生徒の感覚から近い部分の「気づき」から展開することにより、社会科のクリエイティブな部分に触れ、社会科って「面白い!!」、「楽しい!!」と生徒が意欲をもって取り組める工夫をしていく。

3. 試験について

	1 学期		2 学期		3 学期
定期試験	一次 5月	二次 7月	一次 10月	二次 12月	期末 3月
学力試験	実施しない		実施しない		実施しない

内容・難易度について

- ①定期試験：100点満点で出題。出題範囲は授業進度および内容を考慮し、毎回指示します。時事問題等も取扱う。論述問題等も取り入れ、暗記以外の理解についての問を実施する。
- ②学力試験：実施しません。

4. 課題・補講について

課題は授業中必要に応じて、その都度指示する。

5. 評価の観点

定期試験を中心に授業への姿勢、ワークへの取り組みなど、を参考にして総合的に評価する。

年間授業計画

学期	単 元	学 習 内 容	備 考
1	幕末の動揺～倒幕運動の高まり	江戸時代後期における幕府の動揺と民衆の生活のギャップを比較しながら、「なぜ江戸時代は終わりをむかえたのか」、「なぜ新政府の発足が行われたのか」といった点を中心として、世界情勢にも触れながら、目まぐるしく変化する時代の本質を考えていく。 この教科の基礎になる部分になる。	幕府の求める民衆像とそれに逆行する民衆の生活を中心に展開する。
2	明治維新～条約改正	新政府として発足した明治政府の実態と江戸幕府から変化した点を中心に展開し、欧化による時代の変化の要因へと迫っていく。そして国際的な立ち位置の変化にも着目し、「なぜ日本が帝国主義へと歩みをすすめていったのか」といった問へと取り組む。	新政府の政策と民衆(氏族を含む)のズレに着目する。
3	日清・日露戦争～社会運動の高まり	国際社会へと飛び込んだ日本が対外戦争を経て、どのように国家として成長していったのか、また、「なぜ世界大戦へと世界が歩みを進めているのか」について考える。	世界情勢と国内情勢を連結して考えられるよう留意する。